

平成27年度 第3回 緩和ケア勉強会のご報告

今年度の第3回緩和ケア勉強会は、8月20日に開催いたしました。出席人数は56名、うち、院内21名、院外35名でした。

今年度の年間テーマは「症例に学ぶ ～多施設・多職種で関わる緩和ケア～」です。第3回目の今回は「家族介護力不足を多施設・多職種で支援した事例」というテーマで、デスカンファレンスを行いました。緩和ケア病棟入院時の様子を病棟看護師から、看取りまでの在宅療養を支えた在宅医療機関のスタッフより、それぞれの立場からの患者・家族との関わりをお話していただきました。介護者が妻のみ、妻は仕事に行かなければならない、そんな状況での在宅療養を支えたのは、在宅医療機関のスタッフでした。徐々に認知力が低下していくなかで、妻の病状認識は低く積極的に介護に関わろうとしないという現状。ケアマネが中心となり、訪問診療だけだったサービスが、訪問介護、ナースデイの利用、ヘルパーの介入とあらゆる居宅サービスを利用し在宅療養を継続、在宅での看取りとなった事例でした。

今回はアンケートでの感想を紹介させていただきます。

アンケート結果報告

- ・自宅にいたいという本人の願いが叶えられたことは素晴らしい。
- ・あらためて多施設・多職種での連携は大切だなと思いました。
- ・多職種で連携することで個々の力がより良く発揮することができると感じた。
- ・緩和ケア病棟へのレスパイト入院がうまく活用できていた。
- ・介護者・ご本人とケアマネジャーとの信頼関係の確立が第一だと思っています。在宅で生活するには家族で支えるわけですが、1人では絶対できないことだと思っています。
- ・多職種がそれぞれの役割を同じ方向を向いてケアできた時、それぞれのサービスのモチベーションが上がると思います。とても参考になりました。

勉強会の様子



次の講演会：9月17日（木） 18時～19時半
内容：「家族療法」 家庭支援専門員 岡 聡先生

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もどしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX：0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp